
第 3 期事業年度 事業報告書

(自 平成 25 年 6 月 1 日 至 平成 26 年 5 月 31 日)

一般社団法人 おらが大槌夢広場

目次

- I 第3期事業年度事業の報告
- II 第4期事業年度について

I 第3期事業年度の報告

平成27年1月24日 事務局

1. 団体の概要

(1) 法人の目的

東北太平洋沖地震により、激甚な被害を受けた岩手県大槌町において、町民や専門家の幅広い知恵と行動力を結集し、まちづくりに関する事業を行い、観光業、商工業、農水産業の発展と、それらの担い手である大槌町民の生活再建に寄与すること。

(2) 事業内容

[法人定款より]

- ① 住民参加型復興まちづくりに関する、調査研究やその補助事業
- ② 効率的な町づくりの運営に資するための委託事業
- ③ 津波被害前後の大槌の歴史や資源、景観等に関する情報の収集・蓄積および展示、インタープリテーションを含めたタウンミュージアム事業
- ④ 災害ボランティアや視察研修等の誘致と、そのアメニティ向上
- ⑤ 大槌町民と国民、行政およびその外郭団体とのネットワークの促進
- ⑥ ご当地グルメや観光資源の発掘・開発、イベントの実施など、地域振興に資する事業
- ⑦ 飲食（ご当地グルメ）の提供
- ⑧ 前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

2. 第3期事業年度の取り組みについて

(1) 取り組みの概況

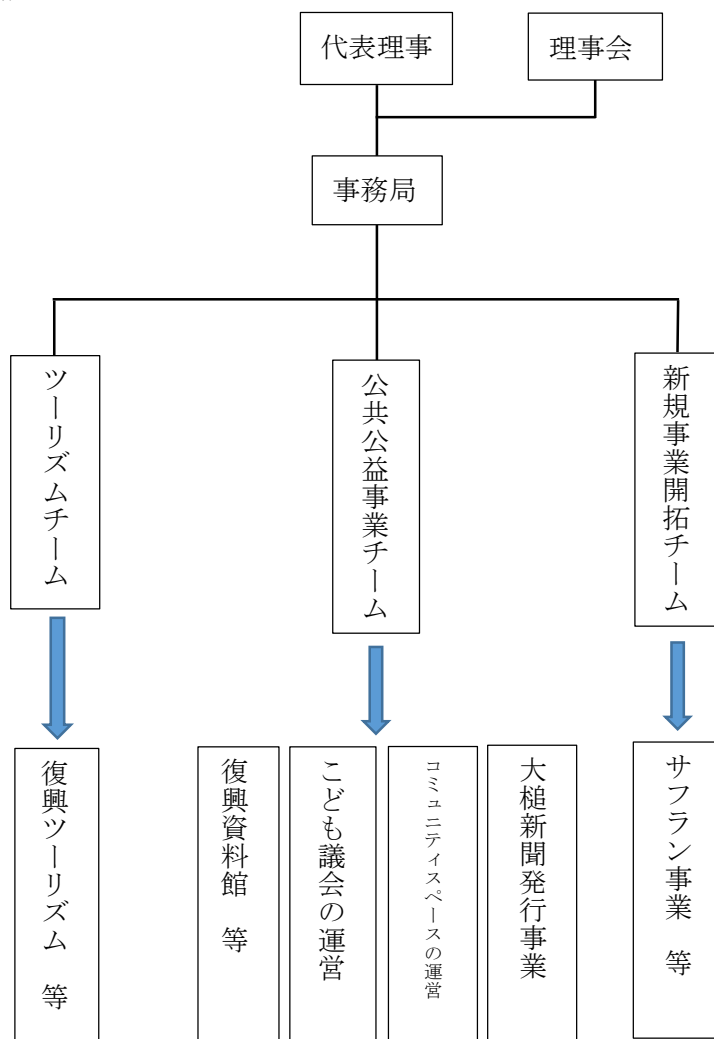
平成25年度「大槌町 生涯現役型等雇用創出事業」の受託、各種民間助成等を請け、事業を展開してきました。

収入総額	72,020,432 円
（前年度からの繰越額）	1,834,200 円
（本年度の収入額）	70,186,232 円
支出総額	64,179,072 円
翌年度への繰越額	7,841,360 円

(2) 具体的な取り組みの報告

今年度は、昨年度のチーム制を概ね引き継ぎながら①公共公益的な事業②観光振興に資する事業③新規事業開拓という3つの事業を展開してきました。

〔事業執行体制〕



1. 公共公益事業チーム

町内全戸に配布し、町民目線で種々の情報を伝える「大槌新聞」の発行を継続して行い、創刊から平成25年12月分までをまとめた「大槌新聞縮刷版」を発売しました。また、広告媒体としての大槌新聞の認知度が上がったことから広告収入が徐々に増えているほか、記者が撮りためた写真を使っただのポストカード作成・販売など、地域新聞として事業独立～自走できる可能性が更に高まりました。



コミュニティスペースとして運用していた「町方ドーム」は、嵩上げに伴う移転のため取り壊しを余儀なくされましたが、移転後に事務所1階をコミュニティスペースとして開放したところ、地域住民の集会場所としての利用が増えています。

復興資料館は、神戸大学からお借りしている「震災前の大槌町」模型を中心に展示しており、ツーリズム事業との親和性が高いことから、被災地視察、教育旅行などの震災語り部ガイドの一環としても利用されています。



2. ツーリズムチーム



<新人研修 作業の様子>

前年度同様、様々な目的を持って大槌町を訪れる方々向けに、語り部ガイドを核とした種々プログラムを提案し続け、結果として、年間約6,000人の受け入れを行い

した。そして、大槌町というフィールドを使った、独自の企業向け新人研修、リーダーシップ研修、教育旅行などは増加傾向にあります。

訪れていただく皆様の想いに応えつつ、大槌町民の成長にもつながるコンテンツを考え続けています。



<クロスロードWSの様子>

【企業研修受け入れ実績】

- ・鹿島道路株式会社
- ・東北電力株式会社
- ・KDD I 株式会社
- ・パークレイズ証券株式会社
- ・旭化成株式会社
- ・千代田化工建設株式会社 他 全 25 社(一部抜粋)



【教育旅行受け入れ実績】

- ・大阪府立金剛高校
- ・花北青雲高校
- ・北上翔南高校
- ・明治学院大学
- ・東京大学 他 前 1 7 校 (一部抜粋)



3. 新規事業開拓チーム

「大槌ひと育て×まち育て大学」という学びの場をベースに、「プリザーブドフラワー事業」「サフラン事業」「蓄光ビジネス事業」などの取り組みが生まれましたが、起業にまでは至らなかったという現実があります。しかし、その過程において、希薄な起業マインド、場所・資金の問題、担い手と技術の不足など、大槌町民が抱える課題が、より明確になりました。